



# 但馬水産技術センターだより



## 海況情報（K2326号）

令和5年10月6日  
兵庫県立農林水産技術総合センター  
但馬水産技術センター 発行

### 1. 日本海海況予報（2023年10月中旬～12月）

日本海における海況の予報をお知らせします。

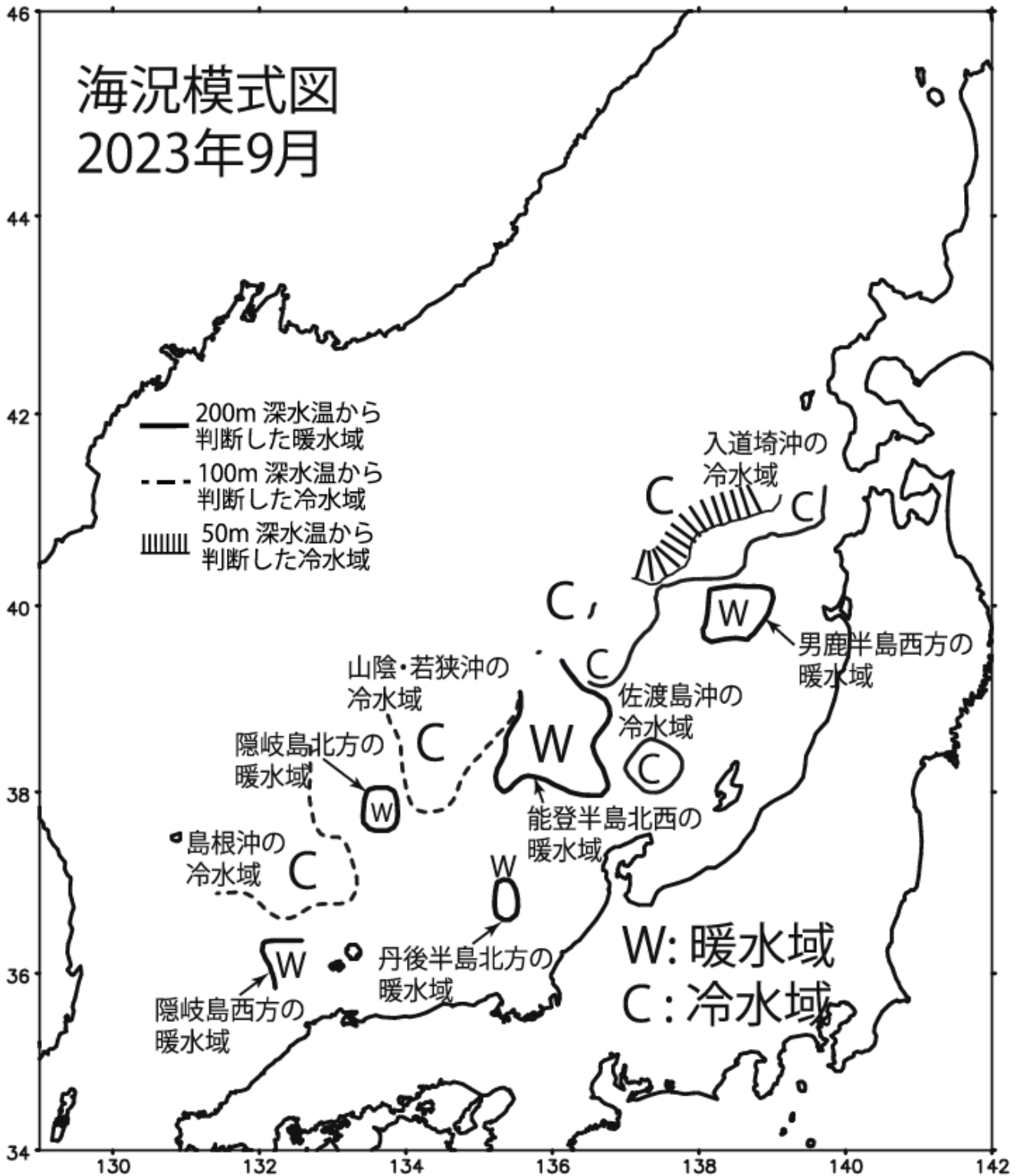
#### 資料1

- ・2023年度第3回日本海海況予報（国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所）＊観測データの出所は但馬水産技術センターほか各道府県等。

（コメント：10月中旬～12月の見通し一部抜粋、別紙の「2023年9月の海況模式図」参照）

- ・ 隠岐島西方の暖水域は北西に移動し、鬱<sup>うつりょう</sup>陵島周辺に分布。
- ・ 隠岐島北方の暖水域は北東に移動し、能登半島北西に分布。
- ・ 丹後半島北方の暖水域は、大部分は北東に移動して能登半島北西の暖水域と男鹿半島西方の暖水域と合流して佐渡島北西に分布し、一部は南西に移動して隠岐島東方に分布。
- ・ 島根沖の冷水域の張り出しは、規模は「やや小さく」、接岸状況は「かなり離岸」で経過。
- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は「かなり小さく」、接岸状況は「はなはだ離岸」で経過。
- ・ 対馬暖流域の表面水温は、「かなり高め」で経過。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに「やや高め」で経過。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（鈴木）TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684  
email：nouringc\_tajima@pref.hyogo.lg.jp  
ホームページ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/



2023年9月の海況模式図

出典：国立研究開発法人水産研究・教育機構  
<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2023/index2.html>

## 2023年度 第3回 日本海海況予報

### 1. 今後の見通し（2023年10月中旬～12月）

- (1) 隠岐島西方の暖水域は北西に移動し、鬱陵島周辺に分布する。隠岐島北方の暖水域は北東に移動し、能登半島北西に分布する。丹後半島北方の暖水域は、大部分は北東に移動して能登半島北西の暖水域と男鹿半島西方の暖水域と合流して佐渡島北西に分布し、一部は南西に移動して隠岐島東方に分布する。能登半島北西の暖水域は北東に移動し、やや西方に移動した男鹿半島西方の暖水域と合流して佐渡島北西に分布する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、やや小さくかなり離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくはなはだ離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくやや離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“かなり高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部及び北部ともに“やや高め”で経過する。

### 2. 経過（(1)は2023年6月～9月、(2)～(3)は2023年6月～8月、(4)は2023年6月）

- (1) 6月に隠岐島北方で出現した暖水域は9月にやや東方へ移動。隠岐島東方で出現した暖水域は北東に移動し、9月に丹後半島北方に分布。能登半島北西で見られた暖水域は9月まで停滞。能登半島北方で見られた暖水域は北東に移動し、9月に男鹿半島西方に分布。7月に新潟南西沿岸で出現した暖水域は8月に消滅。8月に隠岐島西方で出現した暖水域は9月まで停滞。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月はかなり小さくやや離岸、7月はかなり小さくはなはだ離岸、8月はかなり小さく接岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、6月はかなり小さく接岸距離は平年並み、7月はやや小さくやや離岸、8月はかなり小さくかなり離岸。佐渡島沖の冷水域は、6月はやや小さく接岸距離は平年並み、7月はかなり小さくはなはだ離岸、8月は規模・接岸距離ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、6月はかなり小さくはなはだ離岸、7月はやや小さくやや離岸、8月はやや小さく接岸距離は平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、6月は、佐渡島西方“やや低め”、隠岐島北方、鳥取沿岸～鳥取北方、津軽海峡はるか西方、北海道北西域で“やや高め”、佐渡島北西で“かなり高め”、それ以外は“平年並み”。7月は、富山湾沿岸、新潟沿岸、津軽海峡はるか西方で“かなり高め”、能登半島北西で“かなり低め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。8月は、大和堆周辺で“はなはだ高め”、山口北方で“平年並み”、それ以外は“やや高め”～“かなり高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部・北部ともに“かなり高め”。

### 3. 現況（2023年9月）

- (1) 暖水域は、隠岐島西方、隠岐島北方、丹後半島北方、能登半島北西、男鹿半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域と山陰・若狭沖の冷水域はともに、かなり小さくはなはだ離岸。佐渡沖の冷水域は、規模・接岸距離ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、かなり小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、大和堆周辺、男鹿半島沿岸～西方、津軽半島沿岸～西方で“はなはだ高め”、山口沿岸で“平年並み”、それ以外は“やや高め”～“かなり高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部・北部ともに“やや高め”。

(註) この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した FRA-ROMS II システムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（10月～12月）も参考にした。引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

“はなはだ高め（低め）”	: 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ）
“かなり高め（低め）”	: 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ）
“やや高め（低め）”	: 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ）
“平年並み”	: 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

出典：国立研究開発法人水産研究・教育機構

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2023/index2.html>